

# PHV車から給電 速やかに

## 震災で停電想定 豊田・朝日丘中で訓練

震災による停電時に、電気を動力の一つとする自動車から避難所に給電する訓練が、豊田市の朝日丘中学校であった。ネットトヨタ中部からプラグインハイブリッド車（PHV）のRAV4が同校に向かい、体育館に電力を供給した。（服部 栞）



体育館外壁の接続盤と給電車をつなげる市職員（いずれも豊田市の朝日丘中で）

南海トラフ地震が発生し、広域にわたって停電が発生したとの想定で実施。市が、県の防災情報システムを通じて給電車の派遣を要請すると、三十分ほどで中学校に車が到着した。すぐさま市の避難所運営班が体育館の外壁にある外部電源接続盤と車をケーブルで接続。スイッチを入れると、館内は停電対策で設置されていた発光ダイオード（LED）照明で明るく照らされた。市は二〇二一年度、拠点避難所二十六カ所にLED照明や外部電源接続盤などの停電対策設備を整備してきた。LED電球の消費電力は白熱電球の六分の一以下とされており、より少ない電力で必要な明るさを確保できる。災害時の外部給電は、スマートフォンの充電や家電の利用に



外部給電によりLED照明がともった体育館

使われることが多いが、避難所にも接続盤を設置し、災害時に多くの人の生活を一時的に支えられるようにしてきた。スムーズに体育館が明るくなり、市防災訓練課の野口友樹さん（右）は「訓練では市が整備してきたものが生きた。今後、災害が起きたときも、速やかな対応ができるようになった」と手応えを感じていた。訓練は、県とトヨタ自動車などが二〇年一月に締結した包括連携協定の項目「防災・災害サポート」に基づき、初めて開かれた。